



プライベートビューイングで「今だけここだけ」の体験を楽しむ



4G 時代のキーワードは「いつでもどこでも」でしたが、5G時代は「今だけここだけ」の時代。それをもっとも実感できるのがエンターテインメントの分野です。

「いつでもどこでも」の時代は、スマートフォンで映画やライブを楽しむのがスタンダードでした。それが、「今だけここだけ」の時代には、もっと「体験」としての特別感が求められるようになります。それを象徴するのが、東京五輪で実施される予定の「プライベートビューイング」という試みです。

「パブリックビューイング」という言葉は聞いたことのある方も多しはず。映画館やスポーツバーなどの大型映像装置で、別の場所で開催されているイベントをリアルタイムに鑑賞、観戦しようというものです。

プライベートビューイングは、その小規模バージョン。知り合いだけの貸し切り空間でイベントを楽しみ、食事やお酒を楽しみながら、周りを気にせず盛り上げられるのが魅力です。パーティースペースやケータリングサービスと連携し、トータルでの需要が見込めるということで、ビジネスとしての可能性にも期待が寄せられています。



リアル店舗の魅力が復活。利便性と遊び心を追求したモールが増える



い つでもどこでも」オンラインショップでモノが買える時代に慣れてしまうと、逆に人は「ショッピングモールに行く」という体験をしたくなるもの。5G時代には認証システムが高度化し、スマートフォンのアプリなどを介してショッピングモールの入り口で自動認証を行うだけで、レジを通さずに買い物ができるようになるでしょう。代金は、アプリに登録したクレジットカードから自動的に引き落とされることとなります。

また、ユーザーは「モノを買う」以上の体験をショッピングモールに求めるようになります。昔ながらの商店街で

は、週末にガラガラで抽選を行ったり、子どもたちに風船をプレゼントしたりといった企画を実施していますが、それをもっとゴージャスに、楽しく演出したイベントを仮想空間で体験できる場が増えるのではないのでしょうか。例えば人気アニメの世界の中で抽選ができて、当選したらアニメに登場するキャラクターたちに祝福してもらえるようなイベントです。

利便性ばかりを追求してきた時代は終わり、5G時代は遊び心を追求する時代。「体験」をさらにグレードアップするような試みが増えていくでしょう。



テレワークによって「エキスパート同士の共同作業」が加速



働 き方」というテーマでは、テレワークが加速していくのは間違いないでしょう。新型コロナウイルスの影響で、テレワークの普及が急速に進んでいます。

テレワークといえば、従来よく例に出されていたのが「遠隔医療」。海外に「ゴッドハンド」と呼ばれるような名医がいて、遠隔でロボットを操作して日本の患者さんを手術するというイメージが浸透しています。

しかし、実際の遠隔医療のあり方は、「海外にいる名医と、日本にいる執刀医がコワーク（共同作業）する」とい

う形になるでしょう。監督役の医師が、超高精細な画像を見ながら遠くの執刀医に指示を出すという新しい医療の形は、すでに現実のものになっています。

建設の現場でも、工事の担当者で現場にはいない設計の担当者が、目の前に同じ建物を見ながら、進行を確認し合ったりできるようになります。

「重機を遠隔から操縦する」といった技術は、現在も日進月歩で進んできていますが、5G時代は、エキスパートとエキスパートがコワークして生産性を上げていく時代になっていくでしょう。